

Title	編集後記
Sub Title	
Author	安藤, 広道(Andō, Hiromichi)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2021
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.8, No.1 (2021. 3) ,p.42- 42
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000008-0042

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

安藤広道

慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター副所長
文学部人文社会学科教授

DMC 紀要第 8 号をお届けします。

本年度は、まさに COVID-19 に振り回された 1 年でした。慶應義塾でも春学期の講義は全てオンラインとなり、対面授業が一部再開された秋学期になってもさまざまな規制が続いていました。DMC の活動も大きな影響を受け、FutureLearn では、海外出張が困難になったことで幾つかのコースの制作・公開を延期せざるを得なくなり、毎年秋に開催してきたシンポジウムも（今年度は記念すべき第 10 回目となるはずでしたが…）断念せざるを得ませんでした。その一方で、大学の諸活動の急速なオンライン化の影響もあり、DMC への映像の撮影、コンテンツ制作の依頼は増加しました。FutureLearn も、新規コースの制作をはじめ、既存のコースへのコンテンツの追加、日本語版の作成、コースの塾内利用の促進など、コースとその利用方法の拡充に向けた取り組みが加速することになりました。

DMC シンポジウムについては、秋口まで開催の方法を模索し続けてきましたが、さまざまな議論を経た結果、DMC メンバーによるデジタルアーカイブをめぐる議論をオンラインで収録し公開する、「DMC TALK」を立ち上げることになりました。昨年末から複数回の収録を行い、本号には、第 1 回の DMC TALK として、今年度から DMC のメンバーに加わっていただいた、西洋中世の書物史・書誌学がご専門の徳永聡子さんの議論を収録することにしました。過去の DMC シンポジウムを振り返っても明らかなように、デジタルアーカイブをめぐるのは、アーカイブを構築あるいは利用する人や人々の立場や考えによって、求めるものや課題・問題の認識が大きく異なります。DMC TALK では、これまでのシンポジウムで深く掘り下げることができなかった個々人の「思い」を語ってもらうことを通して、今後のデジタルアーカイブのあり方をめぐる議論に結びついていくようなさまざまな論点を見つけ出していくことを目指します。

このほか本号には、DMC の松本直己さんの研究ノートと、文学研究科博士課程の東詩優さんの報告を掲載しています。松本さんは、ポロノイゲームにおける着手決定のアルゴリズムについて、数学を専門としない方々にも理解しやすいかたちでまとめてくださいました。東さんは、研究プロジェクトのアーカイブを公開するにあたっての著作権法上の問題点を整理してくださっています。

来年度も、まだ COVID-19 の影響が残りそうですが、一方で今年度は COVID-19 により、実にさまざまなことに気づかされた 1 年でもありました。その気づきを今後を生かしていくことが大切だと思っています。